

議事録

会議の名称	令和4年度第8回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和4年10月28日（金曜日）午前10時から正午まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦会長、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、佐々木亮翔委員（※）、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、松川紀代美委員（50音順） ○事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、鹿森企画政策課課長補佐、里企画政策課主査、小倉企画政策課主査、鎌田企画政策課主事 欠席：中嶋亮太委員 ※西東京市総合計画策定審議会の運営に関して必要な事項の制定について（令和3年10月21日付3西企企第231号市長決裁）第2の規定に基づき、出席扱いとする。
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）市民参加について（報告） （2）基本構想の構成について （3）基本理念について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 市民ワークショップ西東京市のミライを考える「まちづくりワークショップ」＜実施報告書＞ 資料1－2 市民参加で得られた基本構想に関する意見一覧 資料2 第3次総合計画 基本構想の構成（案） 資料3 第3次総合計画 基本理念（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>議題1 開会</u> ○会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> （1）市民参加について（報告） 事務局から資料1、資料1－2について説明</p>	

○委員

市民ワークショップの報告書は市民に公開されるか。

○事務局

本日の審議会の資料として公開する。

(2) 基本構想の構成について

事務局から資料2について説明

○会長

総合計画は前半が基本構想、後半が基本計画で構成されている。今回は前半部分の基本構想について審議する。

○委員

資料2において「西東京市のあるべき姿をイメージしやすく分かりやすいフレーズで示す」とあるが、これは基本理念ではなく基本施策のテーマではないか。

○会長

基本理念に入るフレーズの素案が次の議題となっており、資料2の言葉は形式的なものである。

○委員

基本構想の構成の大きな変更点は、将来像とまちづくりの方向を統合する点だが、将来像は目的で、まちづくりの方向は手段である。暮らしとまちづくりの一体化がイメージできるように目的と手段を統合することが基本目標のコンセプトだと解釈している。

○会長

手段は基本施策であると考え。まちづくりの方向で書かれていることは具体的な手段というよりも目的であるために将来像と統合したと理解している。

○委員

構成をシンプルにすることには賛成だが、基本施策と基本計画の書き分けが課題になると感じた。

第2次総合計画では基本理念が「今あるべき姿」で、将来像は「将来なりたい姿」であり、あまり関連がみられなかった。第3次総合計画の基本理念と基本目標はどのような関係でつくるのか。

○会長

基本目標については、昨年度まとめた基本方針の6つを市民参加の意見をもとにブラッシュアップするか、市民ワークショップのテーマをもとに考えるか、の2つのアプローチがあると考えている。

○事務局

基本施策は、基本目標を実現するための方向性であり、基本計画の具体的な取組の柱となるものとして位置付けるため、この名称としているが検討の余地はある。

○会長

名称については今後整理する中で見直してはどうか。

○委員

基本施策は基本計画のテーマという認識で良いなら、「基本施策」と「基本計画（施策）」の、どちらかから「施策」を取るか、名称を変えてはどうか。

○委員

「基本理念」「基本目標」「基本施策」等の言葉は慣れた人には分かるが、より多くの市民に理解してもらうために、「基本的な考え」「基本的な目標」など、分かりやすい言葉にしてはどうか。平易な言葉であれば、子どもを含めて、幅広い人に理解してもらえるのではないかと。

○委員

審議会委員だけでなく、この場にはいない市民にも理解できる計画にしてほしいが、言葉をシンプルにすることで市民の声が薄まってしまうのではないかと感じた。総合計画においては、未来を見据えていることは分かるが、今いる自分たちはどこに含まれているのか疑問に思った。

○会長

柔らかい表現を用いた分かりやすい説明が必要であるが、言葉が柔らかくなりすぎて逆に分かりにくくならないよう注意することも必要である。

○委員

言葉の分かりやすさは必要だが、総合計画は公の資料としての性格も持ち合わせる。また、後年の人々のためにも計画毎に意味することが同じ文言は意味を取り違えることが無きよう、連動させることも必要である。

○会長

基本理念や基本目標等のフレーズは、多くの人に伝わりやすい言葉であるべきである。基本施策については、「施策の分類」とあるので、第2次総合計画の「分野」とも通じる。

SDGsは大きなテーマであるが、総合計画の実施期間はSDGsのターゲットイヤーである2030年を超えるため、「SDGs」を大上段に掲げるか本質的なところに含めるか迷うところである。

○委員

SDGsを内容に含むとしても、それを文章で示さないと分からない。中期計画のような位置づけでSDGsの言葉を入れるべきである。

○会長

フレーズの前段や解説等でSDGsについて触れながら、今後10年のまちづくりを説明する形もあるかもしれない。

基本構想の大枠については、本日事務局より示された案で整理して進めていくこととする。

(3) 基本理念について

事務局から資料3について説明

○委員（録画参加）

どれも魅力的な案で、根幹にある思いは共通している。市政を全く知らない人にも理解してもらうことが重要なので、馴染みのある言葉を使用している案3と案5の「のびしろ」がしっくりくる。

○委員

5案どれも良いと感じるが、基本理念の位置づけは、「10年後こうあるべき」ではなく「大切にしたいもの」を示すものと思っているため、案1と案3が良い。

○委員

5つの案は、どれも「なるほど」と感じた。案2の「深呼吸」は「居心地」「落ち着き」、案3の「いこい」は「いこいの森」「いこいな」に通じる。案1は子どもから高齢者まで幅広い層にとって印象的だと感じた。

○委員

案3は一つ一つの言葉に意味があり、ひらがなで分かりやすい。老若男女に響くメッセージだと感じた。

○委員

案5は、何を繋げて何を描くのか、10年後を想像できない。また、「のびしろ」はとても良い言葉だが、次の10年でそののびしろを少しでも埋めていくのが総合計画と思う。

案4の「ちょうどいい」はこのままでいい、とも読み取れて、希望と期待を込められないようにも感じる。

○委員

案4の「誰にとっても『ちょうどいい』」は解釈が分かれるフレーズである。みんなで考えよう、と問いを投げかけているように感じて、多様性につながっておもしろいと思うが伝わりにくい。案1～3は、何を目指そうとしているのかが分かりやすい。

○会長

シンプルバージョンなど、各案にバリエーションがある。案5を「のびしろにみんなで描こう未来を 西東京市」とするなど、指摘を受けて案を切り捨てるのではなく、改善してはどうか。

○委員

「みんな」という言葉が入っていると良い。案1は「まち」という言葉が2箇所に入っている点が気になった。

○委員

案3の「ともに」という言葉は「協働」、「みんなで一緒に」という意味が込められていて好きなので、シンプルな案にはしたくない。

○委員

第2次総合計画を継承して「やさしさ」という言葉が入っているのか。そうであるならば、第2次総合計画では達成できていなかったのかと思えてしまう。次のステップに進むのなら、案1と案3からは「やさしさ」を抜いてはどうか。

案4の「ちょうどいい」に関しては、他自治体も似た言葉を使っているところがあるため二番煎じという印象がある。

○委員

案1と案3は両方「やさしさ」が含まれるが、案3は、既にある「やさしさ」と「いこい」を未来へ繋げていこうという意味で、案1はこれからやさしいまちを築いていこうという意味であるという違いがある。

市民参加で得られた意見を見ると、西東京市にはやさしさがあると既に思っている人が多いのではないかと。住んでいる自治体にやさしさを感じていない住民からは、自分の住むまちが「やさしいまち」という意見はあまり上がってこない。「やさしいまち」を「築く」より「つなぐ」が良いのではないかと。

○委員

読む立場から考えると、案3は読点を入れて「ともに、未来に、つないで、やさしさと、いこいを、目指す西東京市」としてはどうか。「西東京」だと、市ではなくエリアだと感じる。

○委員

「西東京」だと東京都西部ということになって範囲が広がる。

○会長

この基本理念案を、市民参加企画の参加者など、広く市民にも見てもらうことはできるか。

○委員

スケジュールが間に合うのであれば、市民に広く聞いてみたい。特にシンポジウムやワークショップに参加した人にはぜひ聞きたい。

○委員

市民に聞く機会を作ることができた場合、より充実したプロセスデザインになると思う。しかし、審議会委員がしっかり資料を吟味して議論を重ね、基本理念のそれぞれの案について解釈することも重要である。

○事務局

これまで多くの市民参加の取組を実施し、本審議会でも報告を行ってきている。基本理念の案についても、これまでの様々な意見等を踏まえた上で提示しているため、審議会での議論をいただきたいと考える。

○委員

今後市民が総合計画策定に関わる機会はあるのか。案の一つ一つを吟味して確認する大事な時間をほかの市民にも共有してほしいので、市民をもっと作成プロセスに組み込めないか。

他の委員の意見を聞く中で案3が良いと感じたが、このフレーズだけで伝わるかは疑問であり、もったいないと感じる。フレーズはさらっと読めてしまうため、背景まで共有したい。

○会長

フレーズに込められた思いがたくさんあっても、さらっと読めてしまうのはもったいない。前回の審議会で、基本方針の6つの視点は最近の社会課題のキーワードに言い換えられると述べたが、「みらい」はほかの視点全てにまたがる未来、という深い意味があるのではないかと今日の議論を通じて感じた。

○委員

市民に、自分事という意識をもってもらうために、計画策定の過程で市民の意見をしっかり聞いたということを発信してほしい。

○委員

市民目線からすると、市報等で総合計画が完成したことを知っても、ああそうなんだと思うだけである。市民が計画策定に参加することで自分事として捉えるようになってほしい。西東京市LINEなどで総合計画の審議会の情報を発信しておけば、市報に掲載されたときも納得してもらえるのではないか。

○会長

市民参加企画の参加者からの意見聴取や策定のプロセスの情報発信について検討してほしい。

○委員

ワークショップの報告書が市民に公開されるかという質問は、市民企画の参加者から「あれはどうなったの。」という声があったためである。TwitterやLINEなど、情報発信や見せ方の工夫をしてほしい。

○委員

「住みやすいまち」とはどういうまちか、という理念を入れる必要がある。案3をそのまま採用すると、もう既にある「やさしいまち」をそのままつなぐだけで、新しいものが

生まれないように感じる。

西東京市のブランドやアイデンティティを表す印象的な言葉として、「つながり」を入れてはどうか。個人がつながることで、多様性やSDGs等、6つの基本方針の実現に繋がっていく。

○会長

基本理念というメッセージは行政の宣言ではなく、市民目線であってほしい。例えば案2を「深呼吸したくなるまち 西東京市」とすると、市民の「自分がしたい」という気持ちを沸き起こすものになる。案3では市民が何をするのか分からないので、「住み続けたいまちのために」を頭に加えることで、市民が主役として関わっていると表現できるのではないか。このように、市民が能動的に関わる主役であると伝わる表現を考えてほしい。

議題3 その他

○事務局

次回審議会の日程は決まり次第連絡する。11月に、若手職員向けにワークショップを実施するとともに、11月20日から市民参加の報告会を実施する。

○会長

第8回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)